

# 平成18年9月期 中間決算説明資料

(平成17年10月1日～平成18年3月31日)

平成18年7月

日本フォームサービス株式会社

(証券コード: JASDAQ7869)



# 連結貸借対照表

(単位:百万円未満切捨)

	第50期中間会計期間末 平成18年3月31日現在		第49期中間会計期間末 平成17年3月31日現在	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	864	21.0	800	18.6
固定資産	3,254	79.0	3,510	81.4
資産合計	4,119	100.0	4,311	100.0

流動負債	758	18.4	936	21.7
固定負債	641	15.6	756	17.6
負債合計	1,399	34.0	1,693	39.3
資本合計	2,719	66.0	2,617	60.7
負債及び資本合計	4,119	100.0	4,311	100.0

# 連結損益計算書

(単位:百万円未満切捨)

	第50期中間会計期間 自 平成17年10月1日 至 平成18年3月31日		第49期中間会計期間 自 平成16年10月1日 至 平成17年3月31日	
	金額	百分比	金額	百分比
売上高	1,485	100.0	1,320	100.0
売上原価	1,003	67.6	938	71.1
売上総利益	481	32.4	381	28.9
販売費及び一般管理費	383	25.8	394	29.8
営業利益又は営業損失( )	98	6.6	12	0.9
営業外収益	5	0.4	7	0.6
営業外費用	9	0.6	12	1.0
経常利益又は経常損失( )	94	6.4	17	1.3
特別利益	40	2.7	8	0.6
特別損失	41	2.8	1	0.1
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前 中間純損失( )	93	6.3	10	0.8
法人税、住民税及び事業税	45		1	
法人税等調整額	2		0	
中間純利益又は中間純損失( )	50	3.4	12	1.0

# 個別貸借対照表

(単位:百万円未満切捨)

	第50期中間会計期間末 平成18年3月31日現在		第49期中間会計期間末 平成17年3月31日現在	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	808	19.7	791	18.2
固定資産	3,299	80.3	3,557	81.8
資産合計	4,108	100.0	4,349	100.0
流動負債	746	18.2	932	21.4
固定負債	641	15.6	756	17.4
負債合計	1,387	33.8	1,688	38.8
資本合計	2,721	66.2	2,660	61.2
負債及び資本合計	4,108	100.0	4,349	100.0

# 個別損益計算書

(単位:百万円未満切捨)

	第50期中間会計期間 自 平成17年10月1日 至 平成18年3月31日		第49期中間会計期間 自 平成16年10月1日 至 平成17年3月31日	
	金額	百分比	金額	百分比
売上高	1,485	100.0	1,320	100.0
売上原価	1,046	70.4	952	72.1
売上総利益	439	29.6	367	27.9
販売費及び一般管理費	364	24.6	376	28.5
営業利益又は営業損失( )	74	5.0	8	0.6
営業外収益	5	0.3	5	0.5
営業外費用	9	0.6	12	1.0
経常利益又は経常損失( )	70	4.7	15	1.1
特別利益	40	2.7	8	0.6
特別損失	41	2.8	1	0.1
税引前中間純利益又は税引前中間純損失( )	68	4.6	8	0.6
法人税、住民税及び事業税	39		1	
法人税等調整額	2		0	
中間純利益又は中間純損失( )	31	2.1	10	0.8

# 財政状況の概要(連結)

## 主な増減要因

(単位:百万円未満切捨)

### 【流動資産】

	50期中間期末	49期中間期末	増減
現金及び預金	142	50	92
受取手形及び売掛金	588	608	20
たな卸資産	112	113	1

### 【固定資産】

	50期中間期末	49期中間期末	増減
有形固定資産	3,165	3,325	160

注) 有形固定資産の減少は、東京工場収用に伴う減少1億2千7百万円及び圧縮記帳による減少1億6千4百万円です。

### 【流動負債】

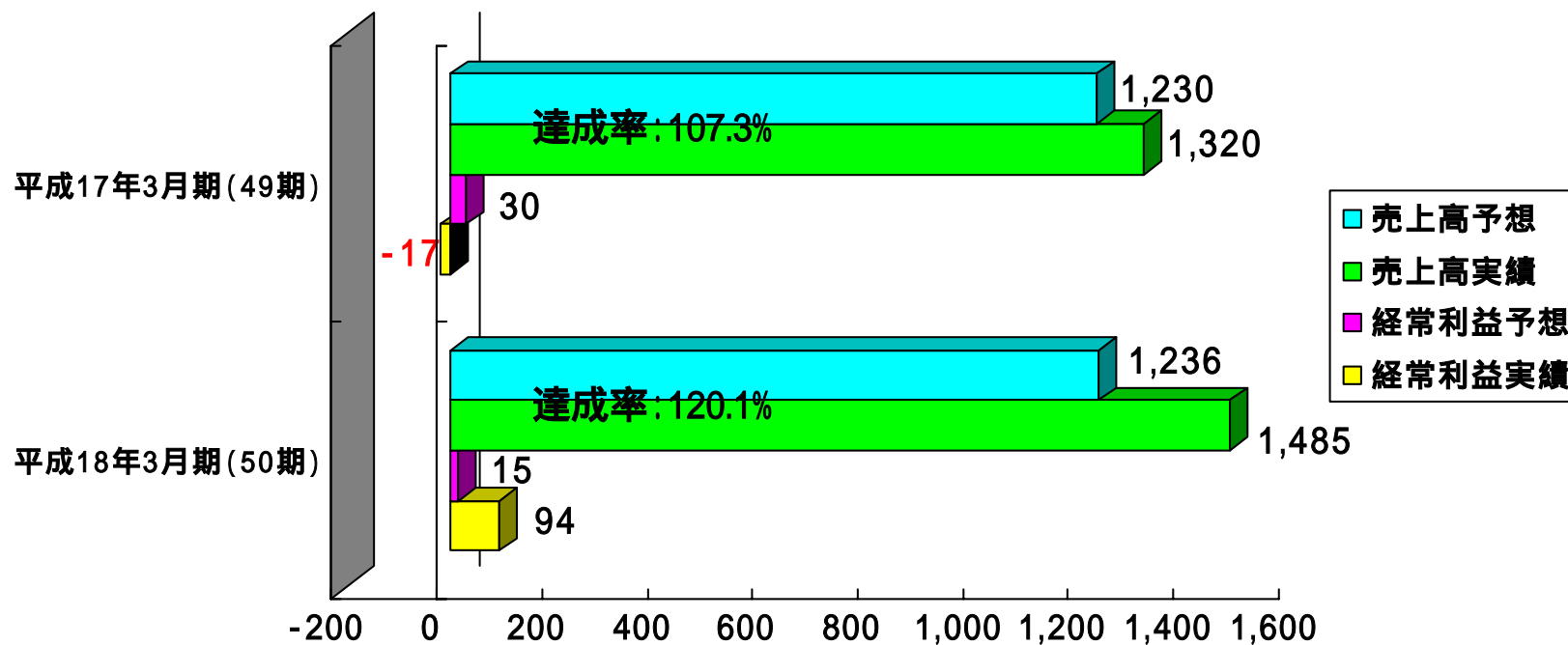
	50期中間期末	49期中間期末	増減
短期借入金	235	429	194
1年内長期借入金	143	187	44

### 【固定負債】

	50期中間期末	49期中間期末	増減
長期借入金	534	662	128

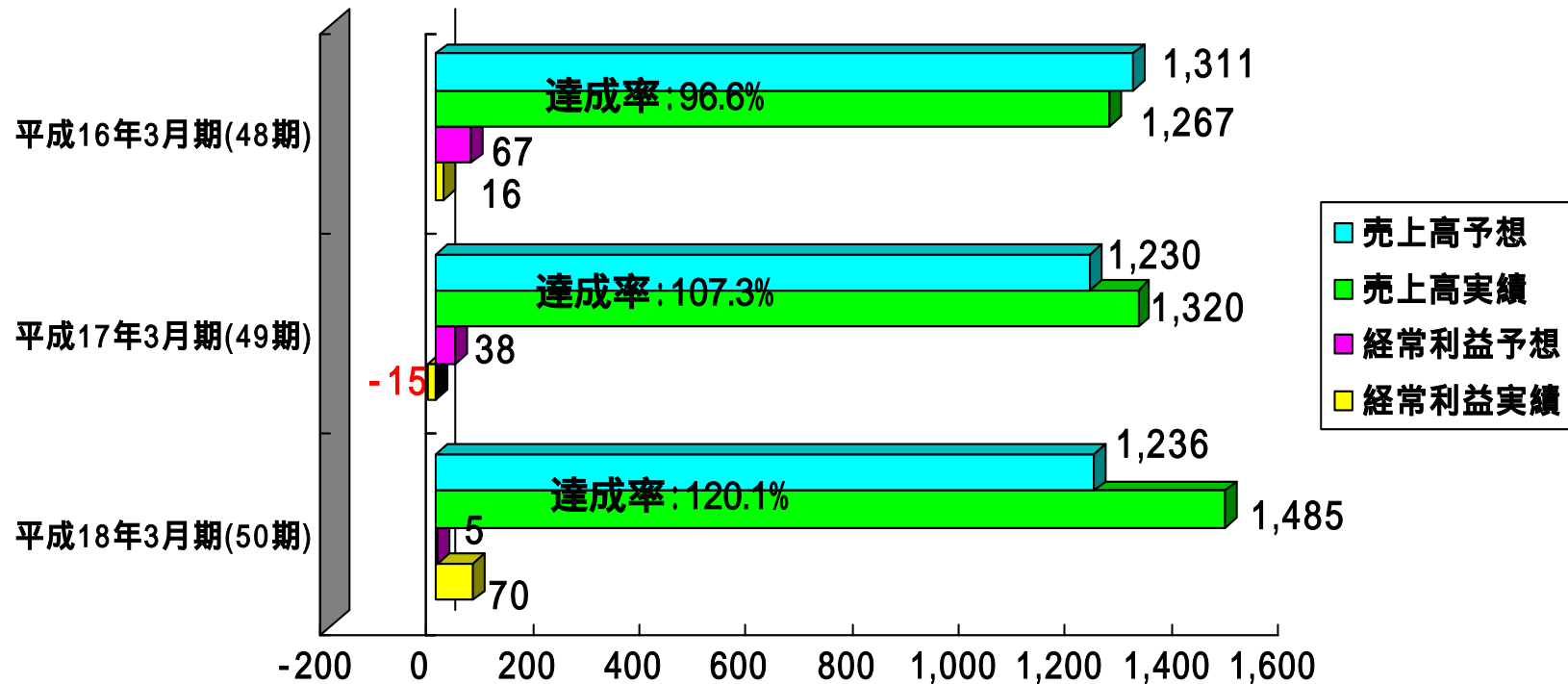
# 連結業績推移

(単位=百万円未満切捨)



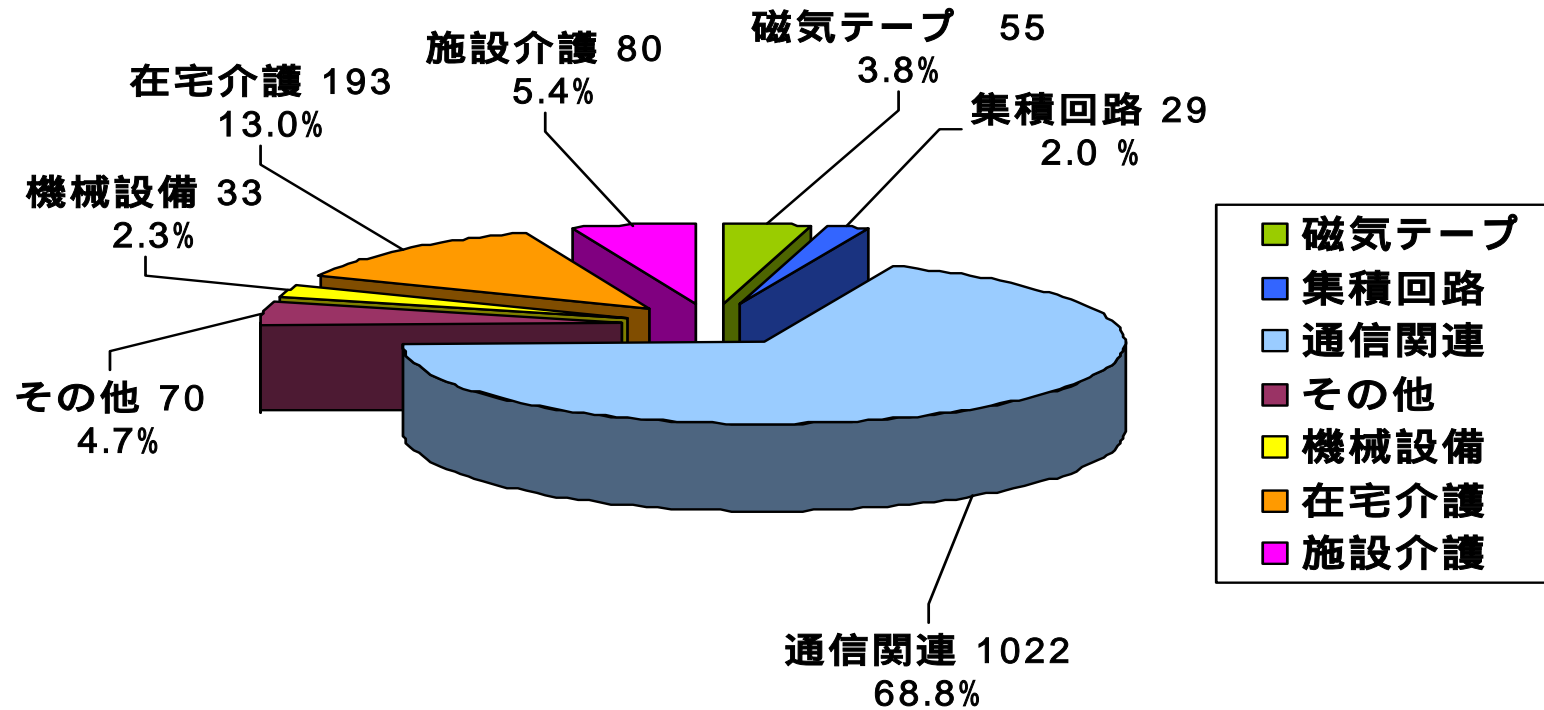
# 個別業績推移

(単位=百万円未満切捨)



# 当中間期 セグメント別売上高(連結)

(単位:百万円未満切捨)



第50期中間期売上高  
売上高 1,485百万円

## 【当中間予想と実績(連結)】

【売上高】

(単位:百万円未満切捨)

	期初予想	実績	予実差
全社計	1,236	1,485	249
メーカー部門	931	1,211	280
介護事業部	305	273	32

【経常利益】

(単位:百万円未満切捨)

	期初予想	実績	予実差
全社計	15	94	79
メーカー部門	45	105	60
介護事業部	30	11	19

## 【 検 証 （ 経 常 利 益 ） 】

### ・ソリューション1部（アーム関連）

子会社フォービステクノ(株)を含め大幅な増益

独自の製品開発で外国品の物真似はしない

### ・ソリューション2部（ラック関連）

利益につながる目玉製品が足りない

19インチラックはどうしても価格競争に巻き込まれ利益が出にくい

### ・地方営業所

営業所で売れる製品が無い

管理体制の不徹底

採算性の合わない営業所は撤退方針

## 【 検 証 ( 経 常 利 益 ) 】

- ・特機部

大口物件の売上計上により予算以上の利益確保

- ・千葉工場

営業よりの受注減少

## 【 検 証 （ 経 常 利 益 ） 】

### ・介護事業部(在宅)

人件費等の無駄な経費が削除出来ていない

居宅介護支援が思うように増えない

4月以降の新予防給付の準備

### ・介護事業部(施設)

グループホームはほぼ予定通り満室にて推移している

デイサービスの順調な収客により予算以上の利益を確保

# 【当期の反省と対策】 (平成17年10月～平成18年9月)

赤字脱却から中々抜け出せない部門の大幅改造



大阪・九州の各営業所はソリューション2部(ラック関連)管轄に変更し、四国営業所は今期の状況によっては撤退方針

今期の介護事業部は(居宅)(施設)の合計で経常損失を36百万円以内に留める

# 当期の業績予想(連結)

## (平成17年10月～平成18年9月)

(単位:百万円未満切捨)

	日本フォームサービス(株)			フォービステクノ(株)	連結調整	全社
	メーカー	介護	計			
売上高	2,345	530	2,875	311	311	2,875
経常利益	198	36	162	41	4	199

注) 平成18年5月17日発表の「平成18年9月期 決算短信(連結)」の通期予想より

# 当期の目標

(平成17年10月～平成18年9月)

他に類を見ない新製品の開発



コアな製品だけを開発

経営陣の若返りの模索

積極的な設備投資(生産設備・システム投資)により、間接部門の合理化の推進

# 当期ノルマ達成するには！

(函物及び機械設備関連事業)

大型・小型モニターアームでは価格競争に巻き込まれる事なく他社には無い製品を投入。今後2～3年先まで液晶・プラズマ等の成長が見込まれる。他社より価格が高くても、現在弊社の製品を指名してくださるユーザーが多数おり、今まで以上の製品の差別化で日本一のアームメーカーを目指す。

RFID(ICカード)に代わる商品で弊社の得意分野の在庫、認証、色別等の出来るシステム組込み製品の開発

個人情報保護法関連の製品売り込み及びバージョンアップ

景気の回復で設備関連の引き合いが相当数あり、当社にはかなりの追い風

# 当期ノルマ達成するには！ (介護関連事業)

平成18年4月から施行の新予防給付。新たなビジネスチャンス！

都老研を中心とした介護予防の運動指導員の養成講座開校 (H18.3)

デイサービスを中心とした介護予防教室を江東・江戸川拠点等で他社に先駆け準備に着手

今後デイサービス等を持たない事業者は淘汰される

江東・江戸川区の地域包括支援センターの受託

人件費比率を居宅は60%、施設は40%以内に抑制を再度追求

施設での小規模多機能型居宅介護に基づきデイサービス部門、  
グループホーム部門の空き状況の無い有効活用  
[通い] [訪問] [泊まり]

# 当期ノルマ達成するには！

(フォービステクノ株)

製品の多様化に対応出来る体制作り

2～3年先までは液晶・プラズマ等の成長見込により、親会社からの大幅な受注が見込めることから現在の工場では手狭感がある

工場の拡張等を検討

フォービステクノ株生産設備の増強

将来の経営者の育成